



In the summer of
MELBOURNE

メルボルの夏

AGORA Special
vol.321

Australia

村松謙二=文 菖蒲タケル=撮影
Text by AGORA Photo by TAKERU

Riverside
at Princes Bridge

メルボルンはオーストラリア南東部の海岸沿いにあるビクトリア州の州都。街の中心を流れるヤラ川沿いには、公園、広場、コンサートホール、カジノなどの施設が並び、昼夜を問わず人々が集う。



Carlton Gardens

カールトン庭園は1839年に造園が開始された、メルボルン中心部の北東端にある庭園だ。約26ヘクタールの庭園中央には、1880年に開催されたメルボルン万博の目玉として建てられた王立博覧会ビルがあり威厳を放っている。



Chetwynd St. / Victoria St.

メルボルン中心部から北へ上がった地域、ノースメルボルン。Chetwynd St.とVictoria St.との交差点から市の中心地を見る。メルボルンのトラムの前身は、1885年に開通したケーブル・トラム。以降街の象徴として、長く親しまれてきた。2015年1月1日から、観光のメインとなるCBD(セントラル・ビジネス・ディストリクト)と呼ばれる中心部の路線運賃が、無料になっている。電車の陰に隠れる建物は、1860年に完成したセントメリー教会。

アメリカ・サンフランシスコを拠点とするプロフットボールチームに、「サンフランシスコ49ers」というチームがある。文字通り、名前は「49年組」なのだがその意味は、一八四八年ごろにカリフォルニアで起きたゴールドラッシュで、馳せ参じた金鉱脈目当ての人々を指している。それから約三年後の五一年、今回の取材地オーストラリア、ビクトリア州の中央部でも金が発見され、オーストラリアのゴールドラッシュが始まる。入り口となった都市のメルボルンは急激な人口増加と、貿易の必要性から急速に発展していった。

ゴールドラッシュの勢いに押されてメルボルンは、一八八〇年代にはシドニーを抜き大英帝国でも二番目に大きな都市となり、今日でもヴィクトリア女王時代(一八三七〜一九〇一)の建築物がロンドンに次いで、二番目に多く残っている都市である。「歴史的な建造物と現代建築、都市と自然が見事に融合された美しい都市」と、資料にはある。第一印象は正しくその通りだが、未知の街に対する期待感よりも、どこかで見たとような親しみ、安心感を覚える。

ゴールドラッシュで世界中から人々が集まったのち、二つの大戦後にもこの地は数多くの移民を受

Auction Rooms

ノースメルボルンに洒落たカフェが立ち並びエローストリートという通りがある。休日の朝にはレーサー仕様のサイクリストが次々とこの通りを訪れ、お気に入りの店に入っていく。その通りを代表する店が「Auction Rooms」。外観は古い家屋をそのままに、店内は広い開口部から入る光と、落ち着いた内装が贅沢な空間を演出している。写真の料理は「Brioche french toast」19AUD。103-107 Errol st. North Melbourne VIC 3051 www.auctionroomscafe.com.au





Block Place

観光のメインとなるCBDと呼ばれるメルボルン中心部は、およそ長辺2キロの長方形の形。リトルコリンズストリート付近には、数多くの路地があり、あらゆる業種の店舗がひしめきあっている。

Queen Victoria Market

開場は今から140年前の1878年。クイーンビクトリアマーケットは1世紀以上の間、メルボルン市民の台所として愛されてきた。全体はおおまかに肉・魚・野菜などの生鮮食品、パン・チョコレートなどの加工品、衣服・雑貨、カフェテリアの4つの業態に分けられる。

左上写真の「M&G Caifafa」はグルメパン&パストリー、ドライフルーツ、ナッツ&シード、自家製オーストラリアピーナッツバターなどを専門とする。営業時間:火・木曜日(6:00~14:00)、金曜日(6:00~17:00)、土曜日(6:00~15:00)、日曜日(9:00~16:00)定休日:月・水曜日、一部の祝日

Corner of Victoria St. and Elizabeth St. Melbourne VIC 3000



「パークマネジメント」という言葉がある。その意味は、行政・企業・市民が連携して、情報発信やイベントなどを行うことを通じて、地域の人々全員で公園をより良くしていこうという考え方だ。日本においては平成二七年三月に、東京都建設局が改訂した「パークマネジメントマスタープラン」に詳しいが、メルボルンではこうである。二〇一三年メルボルン市当局は、市のすべての樹木を地図化し、固有のID番号を与え、電子メールアドレスを割り当てた。結果、二年間に数千通のメールが木々宛に届くこととなった。本来の目的は市民が、衰弱して倒壊しそうな、また枝が道路に干渉しそうな危険な樹木を報告しやすくするためのプログラムであり、もちろんその報告もあった。しかし、市民から届いたのは個別の樹木に対するラブレターなどの、個人的なメッセージだったのだ。メルボルンの市民は、地球温暖化が進んでいること、樹木を追加していけば、街の

け入れ、今なおメルボルンにはたくさんの方の移住者や留学生が集まっている。異なる人種と彼らの文化に寛容であることは、この国の美しさの一つだが、その人々の心を反映した街づくりが今も継続中であることも、街を散策するうちに知ることとなる。



HOPETOUN Tea Rooms

ブロックアーケードは、建築家デビッド・アスキューの設計。モザイクタイル張りの床、ガラスキャノピーなど、メルボルンの古い建築の中でも豊かな装飾が施された造りになっている。その中にある「HOPETOUN Tea Rooms」は1892年に誕生したメルボルン最古のティールームといわれる。

The Block Arcade, 1-2/282 Collins St, Melbourne VIC 3000
www.hopetountearooms.com.au



Caffe E Torta

メルボルンのアーケードで最も古いものの一つであるロイヤルアーケードは1870年に開業した。デザインはサウス・メルボルン市庁舎などのデザインも手掛けていたチャールズ・ウェブ。そのドーム型のグラスストップアーケードは2002年からの改装を経た今も健在だ。「Caffe E Torta」はロイヤルアーケードの南入口、リトルコリンズストリートに面している。

314 Little Collins St. CBD, Melbourne, VIC 3000
royalarcade.com.au/store-directory/#cafe-e-torta